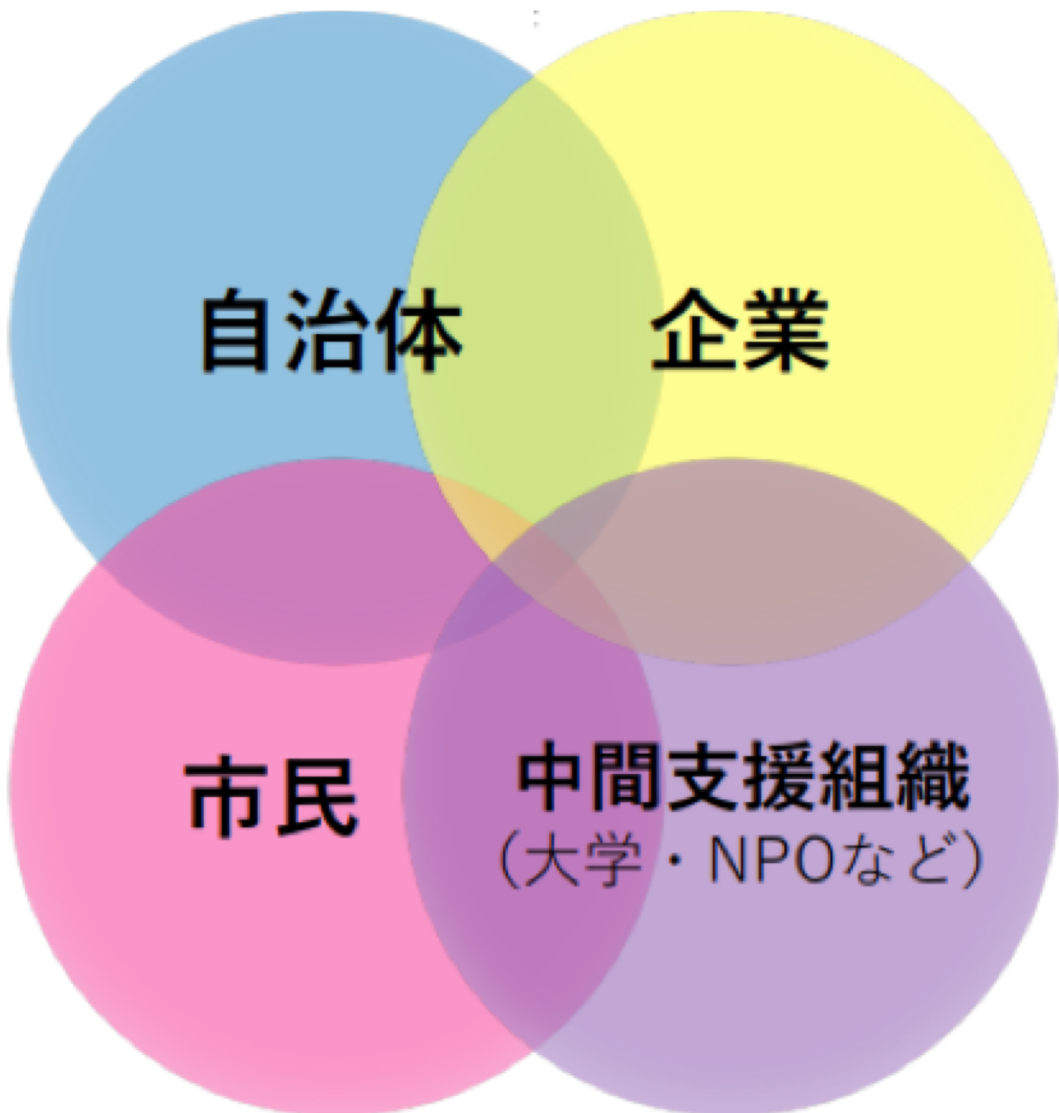


## コラム

FDCが取り組むリビングラボ ～ ユーザー共創による地域づくり ～  
(2022年度ニュースレター抜粋)



# FDC が取り組むリビングラボ ～ ユーザー共創による地域づくり ～

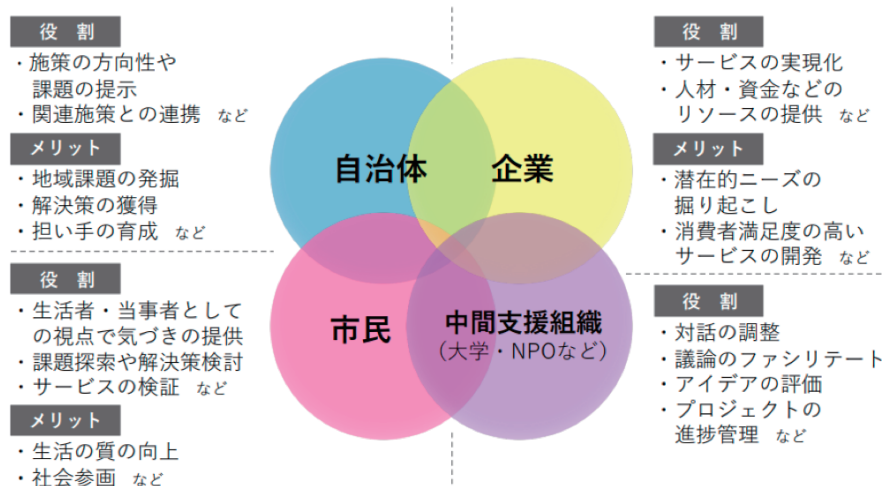
FDC では、欧州におけるスマートシティの推進やイノベーション創出において活用されることの多い「リビングラボ」の手法を 2017 年から活用し、これまで多くの取り組みを進めてきました。

## リビングラボとは

リビングラボは、市民参加型の共創活動であり、ユーザー（市民）、企業、自治体、大学など多様なステークホルダーが参加し、実生活に基づく気づきをもとにアイデアを創出し、さらにそれを実生活の場で検証するオープンイノベーションの手法です。ユーザー（市民）が製品やサービスを共創するパートナーとしての役割と、それに対するモニターとしての役割を果たすことによって、より満足度の高い製品やサービスを生み出すことが期待される、というものです。

### リビングラボにおける各者の役割とメリット

■ 産学官民がそれぞれのリソースを提供し、課題を解決するための施策や事業、製品・サービスを共に創る（共創）

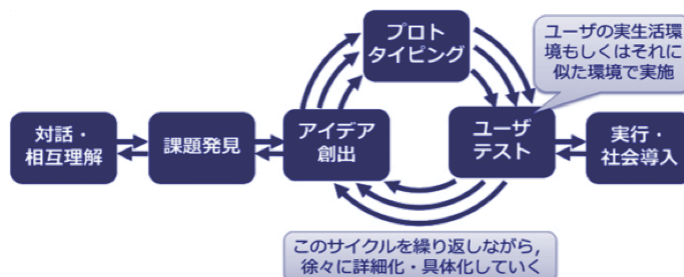


ステークホルダーが対話を重ね相互に理解を深めていく中で、課題を見出し解決に向け創出したアイデアに基づきプロトタイプ（試作）を生活の場でユーザー（市民）が利用したり実施したりします。このサイクルを繰り返すことで、製品やサービスを徐々に詳細化、具体化していく、というプロセスとなります。

リビングラボは製品やサービス開発だけでなく、行政政策の推進といった領域においても有効な手法といえます。例えば現在全国で取り組まれているスマートシティにおいてデータの利活用における市民との合意形成が重要な課題だと言われていますが、このリビングラボの活用によって市民目線での具体的な課題を見つけ解決策を生み出し、納得感を持ってもらいながら政策を進めることが可能になります。またシビックプライド（市民の都市に対する愛着や当事者意識）の醸成にもつながることから、持続可能な地域づくりにも結び付くと FDC は考えています。

## リビングラボのプロセス

### 市民の気づきを起点とする、**実生活**に根ざした共創活動



出所：赤坂文弥，木村篤信：社会課題解決に向けたリビングラボの効果と課題、学会誌サービソロジー、5巻3号，pp.4-11，2018。

## FDC が取り組んだリビングラボの事例

2017 年の「福岡リビングラボ」を皮切りに、FDC では様々な分野のプロジェクトにおいて、事業創出の手法のひとつとしてリビングラボを取り入れてきました。特に FDC では、実証実験として一括りにされがちなプロダクトやサービスを作り上げていく『実証実験』と、出来上がったプロトタイプ（試作品）の社会受容性を確認し社会実装させるための『社会実験』とを切り分けて、リビングラボの取り組みを進めています。

FDC がリビングラボの考え方で取り組んだ主な事例を紹介します。

### ① 九州大学 AI 運行バス [スマートモビリティコンソーシアム]

2016 年より九州大学と福岡市、(株)NTT ドコモら民間企業によって設立したスマート運転バスの実証実験に取り組んで実証を重ね、2019 年に AI を活用したオンデマンド運行バスの本格商用導入に至りました。



### ② 福岡ヘルス・ラボ

産学官民オール福岡で取り組む『福岡 100』の一環として、2017 年に福岡市と FDC により創設。

「楽しみながら」、「自然に」健康づくりに取り組めること（健康行動の習慣化）が期待できるプロダクトについて、市民の参画を得ながら、その効果を検証し、評価・認証することで、事業者のプロダクトの普及の後押しを行ってきました。（詳細は 16p）



### ③ SIB を活用したフレイル予防

市民サポーターを中心とする市民主体のフレイル予防活動に、ソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）のスキームで民間資金を活用し、多面的な効果を可視化しました。



### ④ 地方創生（壱岐市生涯活躍のまち / 壱岐市）

移り住んだ人や市民が、生きがいを持ち、生涯を通じて健康で活躍できる“まちづくり”を目指したプロジェクト。人口減少が進む壱岐市へ、移住者を地域の担い手・活力として呼び込み、雇用の創出や地域の活性化を図りました。



### ⑤ 災害復興支援・朝倉市ファムトリップ

2017 年 7 月九州豪雨からの復興の取り組みとして、福岡都市圏の女性・学生・外国人などを招き、視察および地域事業者とのワークショップを通じて、新たなビジネス創出につなげました。



### ⑥ 小城スマート IC を活用した地域づくり

2018 年より、高速道路を起点とした地方創生の取り組みを行っています。様々なステークホルダーを巻き込み、地域の課題に向き合い、ワークショップにてアイデアを出し合いました。（詳細は 21p）